

# 読響

Yomiuri  
Nippon  
Symphony  
Orchestra

## ペスト流行時の酒宴

死が迫る極限状態で繰り広げられる酒と恋の狂騒！

下野竜也と読響が久々の再会。  
この夜、かつてない衝撃が走る！

鋭い感性により作品に新たな光を当てる俊英

指揮 = 下野竜也

Conductor = TATSUYA SHIMONO

サクソフォンの可能性を追求する“革命児”

サクソフォン = 上野耕平

Saxophone = KOHEI UENO

ショスタコーヴィチ: エレジー

SHOSTAKOVICH: Elegy

ジョン・アダムズ: サクソフォン協奏曲

JOHN ADAMS: Saxophone Concerto

フェルドマン: On Time and the Instrumental Factor (日本初演)

FELDMAN: On Time and the Instrumental Factor (Japan premiere)

グバイドゥーリナ: ペスト流行時の酒宴 (日本初演)

GUBAIDULINA: Feast during a Plague (Japan premiere)

読売日本交響楽団 第594回 定期演奏会

Subscription Concert, No. 594

2020年1月15日(水) 19時 サントリーホール

Wednesday, 15th January 2020 19:00 / Suntory Hall

S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C¥4,100

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時-18時・年中無休)

<https://yomikyo.or.jp/>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 協力: アフラック



# この夜、新たな衝撃が走る!

## 下野竜也が2つの日本初演を含む、4作品を指揮。

下野竜也が、2年10か月ぶりに読響の指揮台に帰ってくる。2006年から約10年にわたり読響と共に歩んで来た下野。17年3月に読響を“卒業”した後、広島交響楽団の音楽総監督として腕をふるっている。今回、下野が選んだプログラムは、まさに彼の真骨頂と言える意欲的なもの。20世紀から現在までを、ロシアとアメリカの二大国の作曲家の4作品で巡るといふ趣向だ。

1曲目のショスタコーヴィチ「エレジー」は、1934年に初演された歌劇「ムツェンスク郡のマクベス夫人」の第1幕でのカテリーナによるアリアを基にした短い弦楽作品。寝室で退屈さと孤独で沈み込んだ彼女の感情が静かに描かれる。

2曲目は、米国の人気作曲家ジョン・アダムズによるサクソフォン協奏曲。2013年に書かれたこの曲では、ジャズのテイストが取り入れられ、サクソフォンと管弦楽が丁々発止のやりとりを展開しながら、超絶技巧のソロが繰り広げられる。独奏を務めるのは“サクソ界の革命児”上野耕平。この難曲の準備に夏前から取り組んでいる上野は、「これは新時代のサクソフォン協奏曲。経験したことがないほどの高い難易度だが、最高にクール。読響とのセッションが待ち遠しい!」と意欲を語る。

3曲目には、20世紀アメリカの作曲家フェルドマンが1962年に書いた作品を日本初演する。フェルドマンは、1950～80年代にかけてニューヨークを拠点にジョン・ケージらと実験的な作品を多く残したことで有名だ。図形楽譜なども用い、抽象表現主義の絵画のような平静で時間が止まったような作風が特徴とされる。本作でも、ゆっくりとした時の歩みの中で、静謐な世界が築かれる。それはマーク・ロスコの抽象画を眺めるような感覚に陥り、凪いだ海を見続けて引き込まれるような魔力を感じさせる。

最後は、現代ロシアを代表する女性作曲家グバイドゥーリナのエネルギー漲る作品「ペスト流行時の酒宴」。4管の大編成で書かれた曲で、2006年にラトル指揮フィラデルフィア管で世界初演され、ヤンソンスやフェドセーエフら名匠が取り上げてきた。フーシキンの同名の戯曲を基にしたもので、ペストによる避けがたい死が迫るといふ極限状態での、酒と恋の狂騒が繰り広げられるかのようだ。冒頭のファンファーレから緊張感が続いて次第に高揚し、テクノ風の録音も加えられ、悪魔的な快楽と恐怖が頂点へと達する。

これら4作品で、下野はクラシック音楽の新たな魅力を引き出すことだろう。ぜひ、ライブで体験していただきたい。

### 指揮 下野 竜也

Conductor= TATSUYA SHIMONO

鋭い感性と熱いハートで活気に満ちた音楽をつくる俊英指揮者。2006年から読響・正指揮者としてドヴォルザークの交響曲全曲演奏や現代作品などの意欲的なプログラムを披露。13年から17年3月までは首席客演指揮者として多大な功績を残した。1969年鹿児島生まれ。大阪フィルの指揮研究員時代には、朝比奈隆らの薫陶を受けた。ウィーン国立演劇音楽大学に留学中、プザンソン国際指揮者コンクールなどで優勝。以降、チェコ・フィル、シュトゥットガルト放送響などと共演し、国際的な活躍を展開している。17年4月から広島交響楽団の音楽総監督を務めるほか、広島ウインドオーケストラ音楽監督、京響常任首席客演指揮者、京都市立芸術大学音楽学部指揮専攻教授の任にある。

### サクソフォン 上野 耕平

Saxophone= KOHEI UENO

読響・首席客演指揮者の山田和樹に「一音を聴いただけで、ただ者ではないと思った!」と絶賛された気鋭のサクソフォン奏者。茨城県東海村出身。東京芸術大学卒業。日本管打楽器コンクールに史上最年少で第1位及び特別大賞を受賞。アドルフ・サクソ国際コンクール第2位を受賞。スコットランドでの世界サクソフォン・コンGRESSにソリストとして出場し、世界の大御所から喝采を浴びた。常に新たなプログラムにも挑戦し、サクソフォンの可能性を最大限に伝えている。テレビ「題名のない音楽会」「情熱大陸」などへも出演。「The Rev Saxophone Quartet」メンバー、吹奏楽「ぼんだウインドオーケストラ」のコンサートマスターとしても活躍中。鉄道と車もこよなく愛し、深く追求し続けている。http://uenokohei.com



©S.Ohsugi

読響日本交響楽団 第594回 定期演奏会

2020年 1月15日(水) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。  
■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017